

司法試験「不合格」体験記？ 私なりの司法試験分析結果報告？

既修未修の別:既修(他学部)

回数:「複数」回

突然ですが司法試験受験生は一様ではないと思います。

容姿の整った方、話すのが得意な方が、スポーツのできる方、音楽をやってきた方、暗記が苦手な方、数学がずば抜けてできる方、プロのテニスプレーヤーだった方、足の不自由な方、高齢な方、国語が苦手な方、生まれや育ち才能までもが皆んな、違っているのだと思います。

百選を何回も読む。判例を第一審から読む。調査官解説を読む。自分で論証を作る。覚える。演習書を何度も解く。この中で私にとって最適解だったものがないわけではないですが皆さんにとって有効であるということは絶対に有り得ません。

司法試験受験生はそれぞれが皆何が得意で何がそうでないのか能力が違っているからです。

成功法則は成績が伸び悩んでいる人不合格が続いてしまっている人を助けてはくれません。

しかし、一般化して言えることはあります。それは失敗談です。多くの人が陥りがちなミスはなぜか多くの人にとって有効で力となります。

では、僕の場合の失敗とは何か。1回目で落ちた時から法科大学院に在籍していたときも色んな方法を試し何十回百回と Trial and Error を繰り返してきました。ですが何一つ上手くはいきませんでした。一つの観点が抜けていたのです。それは、敗因分析をすることでした。

敗因分析が大事だと合格者は口々にいうでしょう。しかし、実際のところ敗因分析はどのようにすればいいのか語れる人は少ないと思います。

敗因分析の内容をもう少し詰めると、論文で何が点に繋がったのか、何が点に繋がらなかったのかしっかりと理解することだといえます。

しかし、採点者の講評や、出題趣旨、採点実感など採点側の講評を読んでも、何が点に繋がったのか理解することは難しいのではないのでしょうか。私は難しかったです。採点側も何を点として認めまたは認めないかほとんど無意識であるからでしょう。

そこで採点者の「無意識の部分」に目を向ける必要があります。材料は、採点がなされた「答案」以外にないでしょう。

成績が伸び悩んでいる人、不合格からなかなか抜け出せない人は、是非、中位?下位の合格答案、または中低位の A 答案と自分の答案を比べてみて下さい。

何かあるはずですが。何が評価され何が評価されないのか。それを自分なりに分析することができなければ、これからどんな勉強方法を試したって成績は伸び悩むどころか落ちることもあるでしょうし、同じことの繰り返しでしょう。

司法試験の勉強とは量より質です。永遠と勉強しているのに受からない人もいれば、短期の合格者、それこそ高校生でも受かるのがその証拠でしょう。

要はポイントを絞って勉強すること。これができれば働きながらでも少々遊んでいても真摯に試験対策に向き合えば受かります。司法試験とは、そこまで高度なことが求められているわけではありません。

僕は合格した受験の年、試験の四ヶ月前という直前期に弁護士である父が倒れました。

事務所に事務員さんはいましたが弁護士は父 1 人しかいなかったため、僕が矢面に立たざるを得ませんでした。

父が抱えていた事件はざっと 80-100 件で裁判所に係属してしまっている事件もあり、父に縁があった弁護士さんに集まって助けて頂き、弁護士の先生方の主導のもと死に物狂いで事件の配転を行いました。依頼者と連絡を取り、弁護士の先生方と面談をし、事件の概要を把握し、裁判者に連絡をとり、弁護士の方々とも連絡を密に取り合う、そういう状況がずっと続きました。

時間が本当になく極限状態でありながらも、本当に親身になって頂ける弁護士の方々もいらっしゃり、その方々が御経験されたお話からも上記方法論が生み出されました。

その方々と家族、恋人の助けもあって、何とか司法試験に臨むことができました。

自分を支えてくれた方々に感謝の意を示すと共に、これを読む受験生が負のスパイラルから、抜け出せることを祈ります。

石井陽大